

### バレエを生んだ音楽



バレエのために書かれたものではないけれど、バレエに使用されている音楽があるのをご存知ですか？さまざまな音楽が、新しいバレエを生み出しています。

#### 【ショパンの音楽】

ショパンの楽曲に振付けられたバレエは実に多い。バレエのために書かれた作品ではなくても、ロマンティックな雰囲気や軽やかなフレーズが踊りによく合う。いくつか作品をご紹介します。

**レ・シルフィード** ミハイル・フォーキン振付。ショパンの音楽を使うことから「ショピニアーナ」と呼ばれることもある。前奏曲、夜想曲、ワルツ、マズルカの中からの7曲で構成され、ダグラスによるオーケストラ編曲で上演される。**請求記号：ALD28、DVD489、3C5.05**

**イン・ザ・ナイト** ジェローム・ロビンス振付。4曲の夜想曲（作品27-1、55-1,2、9-2）で構成されている。ロビンスはこのほか「アザードダンス」「ダンス・アット・ア・ギャザリング」「コンサート」等でもショパンの音楽を使用している。

**椿姫** ジョン・ノイマイヤー振付。全3幕の作品の全曲がショパンの音楽。ピアノ協奏曲第2番、ピアノ・ソナタ第3番の第3楽章、バラード第1番等を使用。**請求記号：DVD540、DVD1454-55**

#### 【チャイコフスキーの音楽】

「白鳥の湖」などバレエ音楽で有名なチャイコフスキーだが、それ以外の作品も華やかでバレエにふさわしいものが多い。たくさんの振付家が彼の音楽にインスピレーションを得ている。

**セレナーデ** ジョージ・バランシン振付。弦楽セレナード 八長調が使用されている。バランシンは自身の多くの作品の中でチャイコフスキーの音楽を使用している。

**オネーギン** ジョン・クランコ振付。全幕チャイコフスキーの音楽。チャイコフスキーはオペラで「エフゲニー・オネーギン」を作曲しているが、その中の曲は全く使われていない。ピアノ曲「四季」から数曲、幻想曲フランチェスカ・ダ・リミニからの断片部分などが使用されている。シュトルツェ編曲による全編オーケストラ演奏。**請求記号：ALD463**

#### 【そのほかにもいろいろ♪】

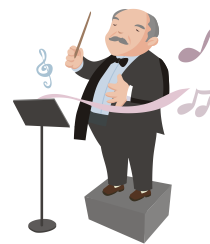
**シンフォニー・イン・C (水晶宮)** バランシン振付。ビゼー作曲 交響曲第1番八長調作品1を使用。

**ジュエルズ** バランシン振付。エメラルドにフォーレ、ルビーにストラヴィンスキー、ダイヤモンドにチャイコフスキーの音楽を使用している。**請求記号：DVD1051**

**マノン** ケネス・マクミラン振付。全幕マスネの音楽を使用。マスネはオペラ「マノン」を作曲しているがそのなかの曲は使用されず、「エレジー」、組曲「アルザスの風景」「劇的風景」、オラトリオ「聖処女」のほか、14のオペラの断片などを組み合わせている。ルーカス編曲（近年ではこれをイエーツがさらに編曲した版もあり）による全編オーケストラ演奏。**請求記号：DVD410**

**マルグリットとアルマン** フレデリク・アシュトン振付。リストのピアノ・ソナタ 短調を用いて、椿姫の物語を展開している。ピアノ独奏にオーケストラ伴奏が加わることもある。**請求記号：DVD366**

最近受け入れた新刊・新譜から、おすすめの資料をご紹介します♪



## 【音源資料】

『コモンズ・スコラ vol.10 Ryuichi Sakamoto Selections : Film Music』

坂本龍一（総合監修） 請求記号：3W3.42

音楽の喜びをより広く、深く共有するため、「みんながゆるやかに共有できるスタンダード（標準）」を作っていくという内容のコモンズ・スコラシリーズ。毎回異なるテーマを取り上げているが、今回のテーマは映画音楽。坂本が選曲した楽曲に、浅田彰、小沼純一、岸野雄一らとの座談会形式による充実した解説がついている。映画音楽の歴史と世界史、音楽史を照らし合わせることができる付録の年表も興味深い。

『ディーヴァ・ディーヴォ』ディドナート（M-Sop）、大野和士（指揮）

リヨン国立歌劇場管弦楽団 他 請求記号：4L1.04

2012年のグラミー賞（最優秀クラシック・ヴォーカル・ソロ）に選ばれたアルバム。メゾ・ソプラノのジョイス・ディドナートが、オペラにおける男性役（フィガロの結婚のケルビーノや、カプレーティとモンテッキのロメオ等）・女性役（セビリアの理髪師のロジーナ、ファウストの劫罰のマルグリート等）の aria を歌っている。豊富なキャラクターを演じられることがメゾ・ソプラノの醍醐味であると自らが語るように、多彩な声を聴かせてくれる。

『悲愴・月光・熱情・告別～ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ名曲集』ブッフビンダー（Pf）

請求記号：6J5.62

すでにベートーヴェンのピアノ・ソナタは全曲を録音しているルドルフ・ブッフビンダー。この録音は、2010年から2011年にかけてドレスデンで行ったソナタ全曲演奏会をライブ録音した新たなシリーズからの抜粋。彼はその音楽や作曲家をよく知ることによって、音楽が「自由」に演奏できると語っている。その上で、コンサートホールで聴衆を前にして演奏をするときにしか生まれない演奏家の緊張感やその場の雰囲気から、自由で自然な流れをもった「音楽的な呼吸」が生まれるという。それはスタジオ録音では得られない特別のものであり、それこそが彼がライブ録音で演奏を残した意味なのだろう。このディスクで、その「特別」をぜひ味わってほしい。

## 【図書】

『新版 オペラと歌舞伎』永竹由幸 水曜社 請求記号：1.8-N131-12

昨年亡くなったオペラ評論家永竹由幸の遺作。オペラと歌舞伎の共通点を比較すると同時に、イタリアと日本はとても似ているという独自の理論も展開していく。オペラと歌舞伎は誕生した時期がほぼ同じであったこと、男性が女形を演じる歌舞伎に対し、オペラはカストラートという去勢した男性で女声役や高音パートを歌う人々がいたことなど、遠く離れた国で起こったことには確かに偶然だけで済まされない因縁めいたものを感じる。筆者のオペラと歌舞伎に対する深い愛と情熱が伝わってくる内容。